

2014年 1月 2日発行



本会は、鎌倉中央公園の貴重な谷戸景観と多彩な動植物を保全するため、市民活動を実践していたメンバーが中心となり、行政との協働で立ち上げたものです。

…会員随時募集中！…

〒247-0066 鎌倉市山崎 1667 鎌倉中央公園管理事務所内 TEL/FAX: 0467-47-1164 木曜を除く 10時～16時

Web URL: <http://www1.ocn.ne.jp/~ya-yato/>

E メールアドレス: ya-yato@arrow.ocn.ne.jp



12/22 雑木林の手入れ

谷戸のたくさんの落ち葉を集めて、堆肥置き場に納めました。満足できる収穫量をもたらしてくれた田んぼも畑も、春の作付けまで耕しや元肥作りが欠かせません。

農閑期こそ、雑木林の手入れの時期です。冬陽を浴びた裸木が青空に透いて見える美しい谷戸景観を保つよう、寒い季節にますます精を出して作業しましょう。

もくじ

☆各班からのお知らせ
→2・3p ☆谷戸の自然だより
→4p ☆谷戸往来→5p ☆
谷戸の体験学習→6・7p ☆
1～3月の日程表(裏表紙)

春の七草&どんと焼き 1/14(火)

2時半～野外生活体験広場(少雨決行)

※引き換え券の頒布があります。

※団子、七草粥は数に限りがあります。

※お椀・お箸をご持参ください。

各班からのお知らせ



田んぼ班 ★1/12(日)、19(日)堆肥切り返し・粃殻くん炭 ★26(日) 堆肥撒き・粃殻くん炭



11/17 藁切り

苗床の耕し・草取り・堆肥入れを始めています。種粃を蒔いたときに上から被せるための土をふるい、土嚢袋に30袋くらい保管したいのですが、水を入れて苗床にしていた土は、なかなか乾いてくれません。水が欲しいと言ったり、いらないと言ったり、そう人間に都合よくはいかないのが自然です。耕した後、少し高い畝にして表面を乾かしては、ふるいます。粃殻くん炭作り、わら切りも冬の間の作業です。今年度の反省や来年のやり方など話しながらできます。



畑班

★1/5(日)落ち葉かき・堆肥作り★12(日)麦踏み・堆肥場の整備
★19(日)荒起こし・畑の整備 ★26(日)小麦畑の草取り・土寄せ

去年はさつまいもが豊作だった上に、続いて収穫した落花生、そば、さといも、たのくろ豆などもよくできていて、大変うれしい実りの秋となりました。また、秋の谷戸まつりの谷戸鍋作りを畑班で担当しましたが、日頃のチームワークのよさを活かして作った谷戸汁が大好評で、みなで喜び達成感を分かち合いました。谷戸にも冬が訪れ、凍てつく季節になりましたが、みなで一緒に落ち葉かきをしたり、麦踏みをしたり、畑を耕していると、心も体もほっこりしてきます。



12/8 たのくろ豆畑の後の耕し



雑木林管理班

★1/12(日)、26(日)雑木林の除間伐・測定 ★19(日)竹の伐採

すっかり葉が落ちて、コナラ、クヌギ林には、明るい陽射しが届いています。落ち葉は集められて半年後には堆肥となって田畑に撒かれます。冬は、雑木林管理班の活動シーズンです。主に倒木や枯木の伐採、



12/1 雑木林の除間伐

常緑樹の抑制によって、コナラ、クヌギの雑木林の景観を守っています。また、樹木の成長、種類の分布を測定する毎木調査も続けて3年目となりました。11月、12月と自然遊び班と協働で一般参加を募り「父と子の里山体験」を実施しました。

このような体験で里山の雑木林に興味を持っていただければと思います。



11/29 たのくろ豆の殻出し



農芸班

★1/19(日)味噌作り

大豊作のたのくろ豆を前にし、あまりの作業の多さに不安を抱きましたが、たくさんの会員の方々の手をお借りして、無事殻出し作業を終えることができました。さいづちを打つ音が心地よく鳴り響いていました。今年もおいしい味噌を仕上げなくてはと、力をいただきました。



自然遊び班

11/3(日)、12/8(日)に行われた「父と子の里山体験」では、のこぎりを使って木の伐採、鎌を使って木の皮むき、薪割り機での薪割り、鉋を使って小割作りなど、道具を使って体を動かし、寒さを吹き飛ばしていました。さまざまな体験を通して里山の雑木林を身近に感じてくれたことと思います。今年で4年目を迎えた「父と子の里山体験」、ますます盛況です。



11/3 父と子の里山体験

★こども里山一日体験

(親子参加型・2歳～小学生まで、各回定員 10 組)

1/19(日)「紙漉き・1」

※雨天の場合翌週に延期

2/9 日との連続企画

谷戸に自生するヒメコウゾの木の皮から繊維を取り出し、紙を漉きます。

昔の人の知恵に驚きますよ。



去年の紙漉きの様子

★父と子の里山体験 (親子参加型・2歳～小学生まで、各回定員 10 組)

2月23日(日)「かまどで焚き付け」 かまどで木を組み、マッチを擦って、火起こしに挑戦します。

3月16日(日)「竹でお椀と箸作り」 竹をのこぎりで切って、お椀やお箸を作ります。



生態系保全班

★1/6(月)、26(日) 野鳥観察



12/4 カヤネズミの巣の調査

ヒキガエルの産卵場所の整備を行いました。ヒキガエルの体の大きさを思い浮かべながら、湿地に穴を掘っていきます。また、1月中旬にはアカガエルの産卵前に手入れをします。どのような環境なら産んでくれるだろうと、メンバーで試行錯誤しながら行います。

今年も冬鳥の季節になりました。湿地ではアオジの鳴き声が聞こえ、雑木林ではコゲラのドラミングも聞こえます。毎年、同じような鳥が観察できるということを大切にしています。



コゲラ



植物育成班

★1/15(水) オギ原の刈り込み ★1/20(月) 野草生育地の手入れ

昨年冬の「鎌倉・山崎 森びとの会」の力を借りてオギ原を半分刈りました。その成果か、今年は元気なオギに変わり、カヤネズミの巣を発見することができました。点在するオギ原

も同じように手入れをしたいと思います。

昨年の7月号でお知らせした、ツルボの苗を野草畑から土手に移植しました。マッチ棒ほどの大きさの球根も、小指の爪ほどに膨れていました。あと何年したらツルボの花が見られるか楽しみです。



ツルボの苗



12/11 野草の植え付け

谷戸の自然だより

～生態系から見た、雑木林の手入れの基本 その2～

④落ち葉かきの大切さ

林を手入れすることで、落ち葉かきがしやすくなります。昔はこれを堆肥の材料に使っていました。

今では落ち葉かきをしなくなって半世紀以上たつので、林に落ち葉がたまって林の土が肥えてきています。アオキやツル植物など、昔は少なかった植物が繁茂するのは、手入れをしないからだけではなく、土が肥えてきたからかもしれません。その証拠にアオキなどはいくら切ってもすぐに生えてきます。本来の雑木林の土はやせていたはずで、昔は松が多かったのもそのせいでしょう。木を切ることでだけでなく、落ち葉をもっと活用することが雑木林の復活につながるのではないのでしょうか。

⑤増える木と減る木

昔はクヌギ、コナラ、ケヤキ、ヤマザクラなど暮らしに役に立つ木以外は全部切るという考え方があったが、今は生態系保全という観点から、放っておいても増える木は切り、減っていく木は残すことを念頭に雑木林の手入れを考えたいものです。一般に、雑木林の手入れでは、常緑樹を切り落葉樹を残すことになっているのは、常緑樹の大部分は放っておいても増えるからです。しかし、常緑樹でも残したい木はありますし、落葉樹でも危険木になりやすく、すぐに生えてくるミズキやカラスザンショウは切る場合もあるでしょう。また、クヌギやヤマザクラのように、苗木を植えないと後継樹が途絶えてしまう木もあります。生態系に配慮した雑木林の手入れには、樹木の知識が望まれます。

⑥植林地の考え方

倒れにくいヒノキは尾根に、倒れやすいスギは斜面下部に植えるのが原則だそうですが、鎌倉ではスギとヒノキが混じって植えられている場所が多いのです。急傾斜地に植えられたスギが倒れる被害が後を絶ちません。いずれ倒れそうなスギは切るべきでしょう。また生態系保全から見ると、スギ林の下草刈りには配慮が必要です。アオキやシダ類を一気に刈ると、ヤブミョウガで覆われてしまい、植物層が単純になってしまうことが多いからです。また、スギ林の下草にはイヌビワやムクノキなど、意外に多くの樹木が育っており、シダの茂った環境はクロジなど鎌倉特有の野鳥の生息地になっているからです。

谷戸の裏方⑨ ～ 土手の綱張り ～

すっきりとした木々が立ち並び、手入れの行き届いた雑木林では山肌が美しく広がる季節になりました。思わず斜面に登って景色を味わいたくなります。子どもは滑って遊びたくなります。でもそこには貴重な野草が潜んでいたり、小動物の行き来する場所だったりするのです。人がむやみに入ることができる斜面は里山にはありません。土手などを含め、地元農家の方も昔から大切にしていました。公園となった今では多くの来園者があり、草の刈りこみに配慮したり、綱を張るなどをして人の侵入を防いでいます。

谷戸の景観にそぐわない注意事項や看板はなるべくなくしたいと思っています。心ある場所作りにご理解、ご協力をお願いします。





谷戸往来 谷戸往来 谷戸往来

神奈川県の職員研修

民間企業・NPO団体派遣研修(10月、全5回)を受け入れ、班活動、体験学習に取り組みました。【感想】谷戸の会の皆さんはとても親切で、最後まで楽しく過ごさせていただき、感謝しています。県とは目的や運営のあり方がいろいろ違う組織ですが、ここで活動したこと、谷戸の会の皆様と交流した経験は貴重なものであり、私の考え方、感性にあらたに影響を与えました。これからはさまざまな方面に好奇心をもって積極的に活動していこうと思います。(宇野)

“サトイモとどろんこ”を開催 11/13(水)

かまくら子育て支援グループ懇談会主催の活動に36組72名の親子が参加し、畑の育てたさといもを素手で掘り出しました。【感想】★思いっきりドロンコになれて遊べた。★味見もできてよかった。その場で食べることで、子どもにとって収穫したものをつながったと思う。★広く自然豊かな中で、同年代の子たちと遊んだり、また収穫したりしたいです。



農作物を寄付しました

今年は特にさつまいもが豊作で、被災者支援団体、老人介護施設、鎌倉風致保存会、青空自主保育、深沢地区社協など、10数団体に寄付をいたしました。



谷戸まつり開催 11/24(日)

暖かな日差しの中、無事に開催され、大盛況のうちに終了しました。炊き出しメニューに加え、班活動で染めた布を使ったくみボタンと糸、稲わ

わら細工、市長も見学

らの正月飾りなどなど。どれも里山保全活動の賜物です。市長も来訪され、楽しんで行かれました。近隣の町内会の方も手伝っていただき、ありがとうございました。

アジアの研修生が谷戸訪問 11/17(日) NGO「PHD」主催

日本で1年間、農業や保健衛生の研修を行っている研修生が谷戸を訪れました。【感想】★



ごはんおいしか

たのくろ豆の選別

ったでした。(ダリスマン/インドネシア)★おいしいごはんをたくさんたべました。べんきょうにもなりました。(モーママ/ミャンマー)★おいしいごはんたべました。ありがとうございました。(プレム・ラマ/ネパール)

“かまくら散歩”開催 12/8(日)

谷戸で開催された、かまくら認知症ネットワーク主催“かまくら散歩”の全面協力をしました。参加者は認知症ご本人、ご家族、中高生ボランティアなど50名以上。落ち葉かきに熱中し、谷戸産のさつまいものおやつも好評でした。

みんなで落ち葉かき

